

第4回医鍼薬地域連携研究会 概要

4月19日（木）に全水道会館にて、第4回医鍼薬地域連携研究会を行いました。

当日は鍼灸師の泉晶先生より「ホリスティックケアから考える医鍼薬地域連携の現状と提案」、医師の小池弘人先生より「ジャングルカンファレンスから考える医鍼薬診療連携の基盤」、そして赤羽峰明先生より「医鍼薬地域連携の今後の活動における提案」をお話いただきました。その後は参加者と活発な意見交換が行われました。

●泉晶先生

⇒「ホリスティック・ケア」をテーマに、泉先生が実際に取り組んでいる活動を紹介

・泉先生の治療院ではセルフマガジン『THE HOLISTIC CARE CENTER（ホリスティック・ケアセンター マガジン）』を作成している。その中では泉先生たちの活動が紹介されている。

・昨年末、東京都杉並区上荻に土地を購入し、戸建ての「ホリスティック・ケアセンター」を設立。その2階で活動している。

・ホリスティックという表現はギリシャ語で「全体性」という意味の「ホロス」という言葉があり、そこからヘルスという意味に変わっていった。ホリスティックとは何かについて、泉先生たちは「心」「身体」「魂」が三位一体となって構成されていると考えており、それら全てにアプローチしていくのがホリスティック・ケアとしている。

これを実践する場として、泉先生たちは中国の伝統医学だけではなく、インドやギリシャのユナニ医学を参考に、現状で自分たちが出来ることを提供しようと考えている。

・ホリスティック・ケアセンターはホリスティック財団が運営。財団を設立したのは泉先生が師事している安田吉三氏で、上馬場先生は同財団の代表理事を務めている。

ホリスティック・ケアの「ケア」は循環、消化吸収、休息（リラクゼーション）、毒素排泄を行うこと。特に力を入れているのが毒素排泄で、身体のなかにある毒素が病気の原因になっていると考えている。

・アーユルヴェーダの中心となっているのは、身体のなかを浄化する方法。食べ物やいろいろなもので身体のなかが汚れてしまうと、病気になってしまう。なので、口から入った食べ物が肛門から出てくるまでの真ん中の消化管の部分、真ん中が空洞になっているちくわに見立てて説明されている。ちくわの肉となる部分に、さまざまな汚れが溜まる。その汚れを体外へ排出する方法がパンチャカルマといわれている方法。

・食べたものが消化されない、未消化のものが毒素になる。まずは消化を促して、未消化物が動きやすくなるようにする。オイルマッサージをして身体にオイルを入れると、汚れが動きやすくなる。また、動きやすくなった汚れを、汗を流すことで皮膚の近くにあった汚れは外に排出していく。消化管に近い汚れは消化管のほうに押し込んでいく。消化管の

ほうに落ち込んだ汚れは、頭に近ければ鼻から排出、胃から近ければ吐くことで排出、小腸に溜まったものは下剤をかけて排出、大腸に溜まっている汚れは、浣腸（下剤）を使って排出する。

消化管のなかに落ち込んだ汚れの排出方法には計 4 つある。この 4 つの方法でも解決しない場合は瀉血法を用いて、血液に直接アプローチする。身体の中がきれいになってから、食事や強壯剤を入れ病気になるようにする。まずは汚れている身体を真っ白にしてから、好きな色に染めるという考え方。

・泉先生が担当している 2 階の鍼灸院では、パンチャカルマを採用して治療している。

⇒泉先生の医鍼薬の連携について

・泉先生の場合は 最初は予約の段階でまずドクターの指示をもらってきてもらう。診断結果や検査結果、画像データ。それを貰ってくる時に、医師に「鍼灸治療を受けていいか」の確認をとってもらう。取れた段階で鍼灸治療の予約ができる。なので必ず医師の診断が入ることがポイント。これのメリットとしては、医師が認識している上で治療ができることと、客観的なデータを現代医学で取っておくことで、治療効果が出るか出ていないかを確認することができる。なので泉先生の治療院では必ず検査結果を持ってきてもらうようにしている。

・鍼灸で問い合わせが多いのは突発性難聴の症状。突発性難聴も今はインターネットで調べると鍼が効くという表現が多いけれど、必ず耳鼻咽喉科の先生に検査をしてもらって、その数値が改善するのを確認しながら治療を行う。

・ホリスティック・ケアは赤ちゃんが生まれる前から棺おけに入るまでのライフステージを対象にしている。その一つの例としてベビーマッサージを家の中でやってもらうことを勧めている。

・ホリスティック・ケアセンターの地下ではアーユルヴェーダのオイルマッサージが受けられる施設を持っている。また、パンチャカルマの肝になってくる発汗を促す施設を持っている。オイルマッサージで体内にある汚れを体表に移動され、発汗することで排出する。同時に毛穴を開いてガスも排出させている。

・セミナールームも備えており、様々なセミナーを開催している。泉先生や上馬場先生がお世話になった幡井勉先生の名前から取って、「ハタイセミナールーム」と名づけている。幡井勉先生は東邦大学の名誉教授だった先生で、インドのアーユルヴェーダを日本に紹介した第一人者。セミナールームには様々な分野の先生に来ていただいている、例えばヨガの石川道子先生を呼んで、家庭でできるヨガを紹介していただいた。

泉先生も「薬箱の中にお灸を入れてもらう」という発想で、灸のセミナーを担当している。そのほか、アーユルヴェーダのセルフマッサージや、家族へのケアができるオイルマッサージのセミナー、インド医学の薬膳教室なども行っている。ホリスティック・ケアセンターにはカフェテリアもあるので、それを活用したセミナーも行っている。

⇒ケーススタディ

・52歳女性。左頸部に痛み。2017年12月に寝違えてから痛みがある。鍼灸治療は数回、他院で受療したものの、改善が見られなかった。2018年2月から頸部の周りが赤くなり、かゆみが出た整形外科と皮膚科の疾患を両方持っている患者。皮膚科の診断では「ヴィダール苔癬」という中年の女性に良く見られる原因不明の皮膚炎になっていた。この段階でまず医師の診断がある。そのうえで鍼灸治療を行っていいかを確認していただき、確認がとれてから治療を開始した。

この皮膚の状態は中国では鮫肌としてとらえるので、汚れた血液が悪さをしていると考えられる。そうすると、まず泉先生の治療院ではオイルマッサージを行い、サウナで発汗させる。そのあと鍼灸では刺絡鍼法を適用する。頸部にある毛細血管から吸い玉で悪い血液を吸い出す。鮫肌になっている部位は吸い玉のあとがきれいだが、毛細血管があった部分は汚れた血液があるので、皮膚の表面にうっ血が見られた。鮫肌の部位は血液が届いていないことが原因だが、実際は頸部がうっ血していることでここに原因があることが分かる。ここまでが泉先生の担当で、その後病院の先生が漢方を処方してくれるなら処方してもらう。漢方をやらない先生の場合は、泉先生の治療院に見学に来ている管理薬剤師の先生を紹介し、漢方薬を処方してもらう。

この患者は4日ほどで赤みとかゆみが軽減され、2週間ほどでヴィダール苔癬が治った。

- ・薬剤師の先生に常駐してもらうことができるか、登録販売者という資格制度で、治療院の中に薬店を置くことができる。なので、鍼灸師と薬剤師が連携しやすい状況になっている。それと同時に、どこか一箇所の病院と提携をするというよりは、例えば泉先生の治療院には北海道からの患者も来院しており、その場合は患者自身に自分の担当医をしっかりみつけてもらい、その先生と提携しながら鍼灸治療を行っているというスタイルをとっている。

●小池弘人先生

⇒ジャングルカンファレンスについて

- ・ジャングルカンファレンスは医鍼薬でどういった連携を取っていくか、という問題よりももっと手前のこと、連携の基盤となる部分。どういった人と連携をしていくのか、連携の基盤の一つの答えが、ジャングルカンファレンスになる。

- ・ジャングルカンファレンスに特定の連携システムがあるわけではない。また、医師がやっているからといって、医師が中心の連携がよいと思っているわけでもない。ただ、医師中心の統合医療が悪いとも思っていない。医師がいて、ちゃんと統合がとれて連携ができるのであれば、それはそれで一つ。ただ全てそれができるわけではない、場合によっては薬剤師や鍼灸師、そのほかの職が中心にならないといけないこともある。医師のみが中心となるというのは、その通りかもしれないが現実的ではないという問題意識のもとにジャングルカンファレンスはある。

- ・統合医療にはいろいろな定義がある。統合医療が抱える問題とは、鍼や様々なものが並

存しているということだと思われる。それは鍼だけではなく、様々な徒手療法、もしくはオステオパシーやスピリチュアルヒーリング、多様なものが存在していることを認めなければならぬ。統合医療の本質は多くの人が多く定義をしているが、小池先生の考えとしては現代医学と呼ばれているものと、そうではないものがある、それをどうするか、それがあつたうえで個別性、全体性がどうだという話しになる。ありとあらゆる方法がごちゃごちゃになっているものをどう扱ったらよいのかというのが、統合医療の本当の問題。

いろいろとあるものをどう扱っていくか、先輩となるような領域が精神医学、心理学といわれる領域。ナシア・ガミーは『現代精神医学原論』において、多元で行くべきだと述べている。多元とは非常に難しく、多元だと思うものは折衷であったりする。

教条主義とは、1つだけが正しいという考え方。

折衷主義とは、効けば何でもよいという一見よい考え方ではあるが、全部よいとしたときに、そのなかで一番強いものに吸収されてしまう懸念がある。

統合主義とは、様々なものが組み合わされて新しい形になるという考え方ではあるが、こんな素晴らしいことが起こるほど臨床現場は簡単ではない。

多元主義とは、すべてがよいとは認めていない。しかし様々なものがあるということは前提に考えている。それらを選んでいって、よいものであれば取り入れる。よいと思うのはエビデンスなのか直感なのかはともかく、選んでいく。選ぶという決断が入ることが折衷主義との違いになる。決断によってどこに責任があるのかが明確になる。小池先生はこの多元主義が統合医療に適していると考えている。ジャングルカンファレンスは多元的な考え方の道場でもある。

・ジャングルカンファレンスを行う際は宗教への勧誘禁止や法の遵守、現代医療の原則優先など、最低限のルールは設けている。詳しくは『ジャングルカンファレンス（実践篇・理論篇）』と言う書籍が発売されているので参考にするとよい。

・ジャングルカンファレンスの例としては、73歳の男性、気分的に落ち込んでいる、几帳面、庭弄りが好き、屋内からでないといった程度の情報を提示して始める。追加情報はその場で聞く。そうすることで症例報告に対するハードルが下がる。そうでないと、症例報告会などを開催した際、医師ばかりが発言するようになってしまう。

・ジャングルカンファレンスは小池先生の造語。奇数月の第2木曜日に開催している。

・ジャングルカンファレンスは多元的で、いろいろな人が様々なことを言う、それに対して自分の好き嫌いはあっても問題ではなく、全てを受け入れる必要はないと考えている。しかしその話しを聞くことで自分と違った考え方があることを知ること、医師だけではなく鍼灸師や薬剤師が中心となった統合医療を形成していく。誰かが中心になるもよし、いないのなら自分たちが中心となっていく、それが統合医療のあり方ではないか。そのなかでただ統合していくのではなく、仲間と学会発表をしたりも可能。

●赤羽峰明先生

⇒今後の活動についての提案

・第4回までに様々な先生からお話を聞くなかで、「やはり医鍼連携は難しい」という声がある。医師と連携していくことは遅かれ早かれ誰かがやっていくことで、もしこの機に実を結ばなかったとしても、ここから次につながっていけばよい。

・一つ目の提案としては、夏までに協力クリニック内での東洋医学的処置を派遣鍼灸師が行う。イメージは医師がクリニック内で、鍼灸が功を奏すであろう疾患に対し、治療を行うというより処置を行う。時間的には10分から20分ほど、例えば耳ツボに置き鍼を置いたり、瀉血という話も出ている。治療となるとどうしても60分だと考えてしまうが、混合診療などの問題もあり、また患者に来てもらうというもののスムーズに進まない。そこで、理解がある医師にクリニック内でスペースを借り、処置を行うことを試してみてもどうか。二つ目の提案としては、医師・鍼灸師・薬剤師による地域連携のワークショップを開催してはどうか。

鍼灸学校を出た卒業生は、学んだことを実践できる場が少ないので、東方医学会を通じて提供したい。

・赤羽先生が所属していたタニクリニックでは、鍼灸を受けたいという患者も多かったが、先生から紹介されてくる患者は投薬の効果が少なかったり、治療に対して疑問や不安がある患者が最後に回されてくるイメージであった。

・実現可能と思われる3つの施策として、第一は医師・鍼灸師・薬剤師の地域連携のワークショップ、定期的な交流会、災害地域のボランティア活動などの開催。これは場所さえあればすぐに開催できる。第二にエビデンスの高い鍼灸を行う（東洋医学的処置）。第三に信頼関係のもとに、鍼灸治療を行う。

・まだ話し合いの段階だが、東方医学会鍼灸部会のほうでスカラシップ制度を検討しており、若干名の先生の会費を免除し、その代わりに鍼灸部会のために活動してもらいたいと提案している。

・上馬場先生と赤羽先生の提案で、東方医学会の発表には、エビデンスとしての価値があるものもあり、ベッドサイドでできるものもあるので、それを協力クリニック内で行っていく。上馬場先生はそれを「インテグラルアキュパンクチャーメソッド」を名づけた。組み合わせることの相乗効果で医療の質を上げる。

・エビデンスがあって、患者に説明できることも今後必要になってくる。

・連携で重要なのは医師に診断をしてもらい、評価してもらうこと。鍼灸をしてやりっぱなしではなく、受療した患者には定期的に医師にかかってもらい、血液検査などでどうかわっているのか、評価を他人にしてもらうこと。結果検査の結果や、薬手帳を読んでどういった病態なのかが医師に効かなくてもある程度分かるようにする。

・初診の段階で、患者には治療が何回くらいになるかを伝えたほうがよい。

・医師から「鍼灸とは何か」と聞かれたときに、医師にメリットがある情報を提示する。例えば鍼灸治療は投薬効果を高める、といったことを説明する。

【参加者からの提案】

- ・開業の鍼灸師は 1 日の臨床数も限られている。一例報告でもいいので、東方医学会でどういった形式で行うのかという方針を決めて会員に情報を集めてもらい、それを会でアナライズする。それを学会などで発表する。
- ・東方医学会の学会はポスター発表がなくしっかりとした発表でハードルが高いので、あえて初心者の方のためにポスター発表の場を設ける。
- ・頭皮鍼などでもよいのでは。